ＩＳＳＮ 0285－4767

# 北海道考古学会だより

第　106　号
２０１３．７．10

目　次

**就任にあたって**…… 1
**2013年度　北海道考古学会第50回総会略報**…… 1
**2013年度　北海道考古学会研究大会報告**…… 6
**遺跡見学会のご案内**…… 7
**月例研究会のお知らせ**…… 8
**北海道考古学会の歩み（６）**…… 8
**事務連絡**…… 9
入退会者のお知らせ…… 9
会費納入についてのお願い……10
会誌編集委員会からのお知らせ……10
北海道考古学会創立50周年記念行事実行特別委員会からのお知らせ……10
その他……10

## 就任にあたって

会長　大島　直行（伊達市噴火湾文化研究所）

このたびの総会におきまして、会長の任を仰せつかることになりました。就任にあたり、先ずもって、任期を終えられた小杉会長はじめ、運営委員、地域委員および監査委員の皆様に、こころよりお礼申し上げます。また、新たに委員となられた皆様には、かずかずのご負担を強いることになりますが、360余名を擁する大所帯の会の運営にご尽力くださいますようご期待申し上げます。

本学会は、今年度、創立50周年の節目を迎えます。この間、学会をとりまく社会情勢の変化はひじょうに大きく､学会が果たさなければならない社会的使命も､創立時には考えも及ばなかったほどに高まっているように思います。全国各地で、毎年行われる発掘調査の件数も、かつてとは比較にならないほど多くなり、その成果の公開や活用に、多くの国民の関心が注がれるようになっています。私たちは、ややもすると、そうした国民目線を感じないまま調査や研究に埋没しがちです。50周年を機に、会員の皆様と、あらためて、私たちの置かれている社会的な状況を確認し、北海道考古学会がなすべき課題を議論してゆきたいと思います。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 2013年度　北海道考古学会第50回総会略報

５月11日12時45分より、北海道大学学術交流会館にて本年度の定期総会が開催されました。会員数360名に対し、本人出席31名、委任状出席64名、合計95名で、総会設立要件である会員数の５分の１以上の出席を得たため、総会は成立いたしました。議長には第２地区の石橋孝夫会員を選出し、下記の議案について審議されました。この結果、下記の原案通り承認されましたのでご報告いたします。

**１号議案　2012年度会務報告**

**（1）事業報告**

**ア　第49回総会・研究大会**

期　　日：2012年５月12日
場　　所：北海道大学　学術交流会館
総　　会：2011年度会務報告、2012年度会務計画案
研究大会：テーマ「アイヌ文化期の『集落』研究」

**イ　運営委員会**

| 回数 | 開催日 | 主たる議題 |
|---|---|---|
| 第１回 | ４月22日 | 研究大会・総会など |

第２回　　７月１日　　遺跡見学会・だより・会誌など
第３回　　７月29日　　遺跡見学会・特別委員会など
第４回　　９月30日　　遺跡報告会・だより・特別委員会など
第５回　　10月28日　　遺跡報告会・研究大会など
第６回　　11月25日　　遺跡報告会・研究大会など
第７回　　１月27日　　研究大会・だより・特別委員会・総会など
第８回　　３月３日　　研究大会・総会・会誌編集など
第９回　　４月21日　　総会・研究大会など

**ウ　月例研究会**

第１回：６月30日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①寺崎康史氏（今金町教育委員会）
「北海道における江戸時代初期の砂金採掘跡と金山跡について」
第２回：７月28日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①大坂拓氏（宮城県教育委員会）「本州東北部弥生社会の変動と北海道」
②大塚宜明氏（明治大学大学院博士課程）
「北海道島における旧石器文化のはじまり―不定形石器群の位置づけを通して―」
第３回：９月29日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①三谷智広氏（洞爺湖町教育委員会）
「近世アイヌ文化期の貝塚からみる生業構造の検討」
②清水香氏（東京都杉並区内遺跡発掘調査団）
「アイヌ文化期の漆椀について―出土資料を中心として―」
第４回：10月27日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①深瀬均氏（北海道大学大学院医学研究科人類進化学分野）
「日本列島における縄文時代人の体形の地域差とその生態地理学的意義」
②森久大氏（士別市立博物館）「道北の押型文土器について」
第５回：11月24日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①柏木大延氏（札幌市埋蔵文化財センター）
「古代東北・北海道における土製支脚の分布から考える集団の移動について」
②荒山千恵氏（いしかり砂丘の風資料館）「漂着ココヤシと土製品」
第６回：１月26日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①坂口隆氏（北海道大学埋蔵文化財調査室）「周堤墓出現の背景を探る」
第７回：３月３日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①平河内毅氏（札幌国際大学学生）「アイヌ文化期の陶磁器について」
②渡邉つづり氏（北海道大学学生）
「古代日本における鉄刀―特に蕨手刀を中心にして―」
③芝田亮平氏（北海道大学学生）「日本列島における洞穴利用の変遷」
第８回：３月30日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①加藤孝幸氏（株式会社アースサイエンス）
「剥片石器に多用される珪質頁岩の成因と供給源推定の試み」

**エ　遺跡見学会**

期　日：８月26日（日）　　場　所：厚真町　　テーマ：厚真町の遺跡を巡る
参加者：40名

**オ　遺跡調査報告会**

期　日：12月22日（土）　　場　所：北海道大学学術交流会館講堂
内　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑

**カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行**

103号：７月18日発行　　104号：11月15日発行　　105号：２月25日発行

**キ　学会ホームページ**

2013年３月まで（12ヶ月間）更新回数：22回

**ク　会誌編集委員会の活動**

会誌『北海道考古学』第49輯の発行（2013年３月発行500部）

**ケ　特別委員会の活動**

遺跡保護特別委員会
北海道考古学会創立50周年記念行事実行特別委員会

## (2) 2012年度収支決算報告

### 収　入

| 項　　目 | 費　　目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 増 ▲減 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 会　　費 | 会　　費 | 1,400,000 | 1,622,200 | 222,200 | 5,000円×322件　6,000円×１件<br>4,500円×１件　1,700円×１件 |
| 事業収入 | 研究大会収入 | 110,000 | 99,000 | ▲ 11,000 | 研究大会資料集販売<br>1,000円×99部 |
| | 遺跡見学会収入 | 240,000 | 189,600 | ▲ 50,400 | 4,000円×40名<br>昼食代800円×37名 |
| | 遺跡調査報告会収入 | 80,000 | 105,000 | 25,000 | 遺跡調査報告会資料集販売<br>1,000円×105部 |
| | 会誌等販売収入 | 150,000 | 62,780 | ▲ 87,220 | 会誌・資料集販売 |
| | 小　　計 | 580,000 | 456,380 | ▲ 123,620 | |
| 広告料収入 | | 0 | 0 | 0 | |
| 雑　　入 | | 4 | 7 | 3 | |
| 繰 越 金 | | 2,285,996 | 2,285,996 | 0 | |
| 基金繰入金 | 特 別 収 入 | 0 | 0 | 0 | |
| 特会収入 | 特別会計収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 合　　計 | | 4,266,000 | 4,364,583 | 98,583 | |

### 支　出

| 項　　目 | 費　　目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 残(▲超過)額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業支出 | 研究大会費 | 400,000 | 394,080 | 5,920 | 要旨印刷・講師費用弁償・<br>会場使用料等 |
| | 遺跡見学会費 | 240,000 | 107,987 | 132,013 | 貸切バス等／振込手数料 |
| | 研 究 会 費 | 75,000 | 24,180 | 50,820 | 案内発送、研究会共催費、<br>発表者交通費 |
| | 遺跡調査報告会費 | 350,000 | 346,560 | 3,440 | 資料集印刷・発表者費用弁償・<br>会場使用料等 |
| | 会誌印刷費 | 1,000,000 | 741,090 | 258,910 | 第49号500部／振込手数料 |
| | だより印刷費 | 160,000 | 155,945 | 4,055 | 103号･104号･105号／振込手数料 |
| | ホームページ費 | 50,000 | 29,352 | 20,648 | プロバイダー契約料、<br>更新・維持管理費 |
| | 小　　計 | 2,275,000 | 1,799,194 | 475,806 | |
| 事務支出 | 総　会　費 | 5,000 | 0 | 5,000 | |
| | 委 員 会 費 | 125,000 | 85,020 | 39,980 | 特別委員会費含む |
| | 消 耗 品 費 | 50,000 | 5,022 | 44,978 | 文房具代・コピー代等 |
| | 通　信　費 | 250,000 | 213,743 | 36,257 | 会誌・だより発送費・<br>葉書切手代金等含む |
| | 賃　　金 | 75,000 | 104,000 | ▲ 29,000 | 会誌・だより等の発送・その他事<br>務処理（1,000円／ｈ×104ｈ） |
| | 小　　計 | 505,000 | 407,785 | 97,215 | |
| 特別支出 | | 20,000 | 0 | 20,000 | |
| 予 備 費 | | 1,466,000 | 0 | 1,466,000 | |
| 合　　計 | | 4,266,000 | 2,206,979 | 2,059,021 | |

### 2012年度決算

| 項　　目 | 費　　目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 差引額<br>(B－A) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 収　入　総　計 | 4,266,000 | 4,364,583 | 98,583 | |
| | 支　出　総　計 | 4,266,000 | 2,206,979 | ▲2,059,021 | |
| 決算額差引 | 収入総計（Ｂ）－支出総計（Ｂ） | | | 2,157,604 | |

**2010年度北海道考古学会基金会計**

| 項　　目 | 費　　目 | 支出額 | 基金積立額 | 基金総額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基　　金 | 名取氏寄付金 | | 420,000 | 420,000 | |
| | 石川氏寄付金 | | 320,000 | 740,000 | |
| | 佐藤氏斉藤氏寄付金 | | 100,000 | 840,000 | |
| | 北構保男氏寄付金 | | 20,000 | 860,000 | |
| | 宮下正司氏寄付金 | | 10,000 | 870,000 | 2005年５月29日10,000円送金<br>2006年３月22日10,000円入金 |
| | 臨時積立金 | | 200,000 | 1,070,000 | 2008年３月31日10,000円入金 |
| | 50周年記念研究大会積立金 | | 250,000 | 1,320,000 | 2012年度積立 |
| | 保存対策費積立金 | | 100,000 | 1,420,000 | 2012年度積立(過年度支出分補填) |
| 合　　計 | | | | 1,420,000 | |
| 過年度支出 | 南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金 | 77,000 | | 1,343,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 160,000 | | 1,183,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 60,000 | | 1,123,000 | |
| | 40周年記念研究大会費 | 240,000 | | 883,000 | |
| 合　　計 | | 537,000 | | | |
| 基　　金　　残　　高 | | | | 883,000 | |

**(3) 2012年度監査報告**

北海道考古学会の2012年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2013年４月27日　監査委員　羽賀憲二　㊞
2013年４月27日　監査委員　千葉英一　㊞

**2号議案　2013年度会務計画**

**(1) 事業計画案**

**ア　基本方針**

① 北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。
② 考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。
③ だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。
④ 会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る

**イ　2013年度事業計画**

**① 50周年記念特別講演会**

日　　時：2013年10月５日(土)
会　　場：北海道大学学術交流会館小講堂・ロビー
テ ー マ：「北の遺跡を発掘する―北海道考古学の成果と展望―」口頭発表およびポスター発表

**② 研究大会**

日　　時：2013年５月11日(土)　10：00～17：00
場　　所：北海道大学学術交流会館
テ ー マ：「先史時代の植物利用戦略」
事例報告：山田悟郎氏・椿坂恭代氏・小畑弘己氏・高瀬克範氏・伊藤由美子氏
討　　論：司会　山田悟郎氏

**③ 遺跡見学会**

日　　時：８月予定

**④ 遺跡報告会**

日　　時：2013年12月14日(土)
場　　所：北海道大学学術交流会館講堂

**⑤ 月例研究会**

開　　催：年９回
時　　期：６月、７月、９月、10月、11月、１月、２月、３月（予定）

**⑥ 会誌「北海道考古学」第50輯の発行**

発　　行：年１回

時　　期：2014年３月　500部発行

⑦ **連絡誌「北海道考古学会だより」の発行**

発　　行：年３回（第106号、第107号、第108号）

時　　期：７月、11月、３月

⑧ **ホームページの管理運営**

### (2) 2013年度予算案

**収　入**

| 項　目 | 費　目 | 2013年度予算額(A) | 2012年度決算額(B) | 増 ▲減 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 会　費 | 会　費 | 1,400,000 | 1,622,200 | ▲ 222,200 | 5,000円×280件 |
| 事業収入 | 研究大会収入 | 100,000 | 99,000 | 1,000 | 資料集売上1,000円×100部 |
| | 遺跡見学会収入 | 160,000 | 189,600 | ▲ 29,600 | 4,000円×40名（貸切バス２台） |
| | 50周年記念大会収入 | 100,000 | 0 | 100,000 | 資料集売上1,000円×100部 |
| | 遺跡調査報告会収入 | 100,000 | 105,000 | ▲ 5,000 | 資料集売上1,000円×100部 |
| | 会誌等販売収入 | 60,000 | 62,780 | ▲ 2,780 | |
| | 小　計 | 520,000 | 456,380 | 63,620 | |
| 広告料収入 | | 0 | 0 | 0 | |
| 雑　入 | | 396 | 7 | 389 | |
| 繰越金 | | 2,157,604 | 2,285,996 | ▲ 128,392 | |
| 基金繰入金 | | 0 | 0 | 0 | |
| 特会収入 | | 0 | 0 | 0 | |
| 合　計 | | 4,078,000 | 4,364,583 | ▲ 286,972 | |

**支　出**

| 項　目 | 費　目 | 2013年度予算額(A) | 2012年度決算額(B) | 増 ▲減 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業支出 | 研究大会費 | 460,000 | 394,080 | 65,920 | 要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等 |
| | 遺跡見学会費 | 120,000 | 107,987 | 12,013 | 貸切バス等／振込手数料 |
| | 研究会費 | 50,000 | 24,180 | 25,820 | 案内発送、研究会共催費、発表者交通費 |
| | 50周年記念大会費 | 250,000 | 0 | 250,000 | 要旨印刷・発表者費用弁償・会場使用料等 |
| | 遺跡調査報告会費 | 350,000 | 346,560 | 3,440 | 資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等 |
| | 会誌印刷費 | 750,000 | 741,090 | 8,910 | 第50号500部／振込手数料 |
| | だより印刷費 | 160,000 | 155,945 | 4,055 | 106号･107号･108号／振込手数料 |
| | ホームページ費 | 50,000 | 29,352 | 20,648 | プロバイダー契約料、更新・維持管理費 |
| | 小　計 | 2,190,000 | 1,799,194 | 390,806 | |
| 事務支出 | 総会費 | 5,000 | 0 | 5,000 | |
| | 委員会費 | 125,000 | 85,020 | 39,980 | 特別委員会費含む |
| | 消耗品費 | 50,000 | 5,022 | 44,978 | 文房具代・コピー代等 |
| | 通信費 | 200,000 | 213,743 | ▲ 13,743 | 会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む |
| | 賃　金 | 75,000 | 104,000 | ▲ 29,000 | 会誌・だより等の発送・その他事務処理 |
| | 小　計 | 455,000 | 407,785 | 47,215 | |
| 特別支出 | | 20,000 | 0 | 20,000 | |
| 予備費 | | 1,413,000 | 0 | 1,413,000 | |
| 合　計 | | 4,078,000 | 2,206,979 | 1,871,021 | |

**2013年度北海道考古学会基金会計**

| 項　　目 | 費　　目 | 支出額 | 基金積立額 | 基金総額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基　　金 | 名取氏寄付金 | | 420,000 | 420,000 | |
| | 石川氏寄付金 | | 320,000 | 740,000 | |
| | 佐藤氏斉藤氏寄付金 | | 100,000 | 840,000 | |
| | 北構保男氏寄付金 | | 20,000 | 860,000 | 2005年５月29日10,000円送金<br>2006年３月22日10,000円入金 |
| | 宮下正司氏寄付金 | | 10,000 | 870,000 | 2008年３月31日10,000円入金 |
| | 臨時積立金 | | 200,000 | 1,070,000 | |
| | 50周年記念研究大会積立金 | | 250,000 | 1,320,000 | 2012年度積立 |
| | 保存対策費等積立金 | | 100,000 | 1,420,000 | 2012年度積立(過年度支出分補填) |
| | 保存対策費等積立金 | | 100,000 | 1,520,000 | 2013年度積立(過年度支出分補填) |
| 合　　計 | | | | 1,520,000 | |
| 過年度支出 | 南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金 | 77,000 | | 1,443,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 160,000 | | 1,283,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 60,000 | | 1,223,000 | |
| | 40周年記念研究大会費 | 240,000 | | 983,000 | |
| | 50周年記念研究大会費 | 250,000 | | 733,000 | 2013年10月支出予定 |
| 合　　計 | | 787,000 | | | |
| 基　　金　　残　　高 | | | | 733,000 | |

**３号議案　運営委員・地域委員・編集委員・監査委員の改選について**

北海道考古学会会則第６条および規則２-１第２条・第３条及び細則３-２に基づき、運営委員、地域委員、監査委員および会誌編集委員について会員による推薦と投票の結果、以下のように改選を行います。

**運営委員**

大島直行（新任：会長）、大谷敏三（再任：副会長）、青野友哉（再任：総務）
内山幸子（再任：会誌・だより）、酒井秀治（新任：見学会）、榊田朋広（新任：会計）
坂本尚史（新任：報告会）、鈴木将太（新任：見学会）、高瀬克範（新任：総務）
田代雄介（新任：報告会）、西脇対名夫（新任：会誌・だより）、村本周三（新任：研究会）

**地域委員**

第３地域：乾芳宏（再任）、第４地域：野村祐一（再任）、第５地域：三谷智広（新任）
第６地域：森久大（新任）、第７地域：林勇介（新任）、第８地域：高橋勇人（再任）
第９地域：関根達人（再任）第10地域：出穂雅実（新任）

**監査委員**

千葉英一（再任）、園部真幸（新任）

**会誌編集委員**

**１号委員**　臼杵勲（委員長：新任）、越田賢一郎（副委員長：新任）、阿部明義（再任）
石橋孝夫（新任）、角田隆志（新任）
**２号委員**　内山幸子（再任）、西脇対名夫（新任）

## 2013年度　北海道考古学会研究大会報告

2013年度の研究大会は、５月11日(土)、北海道大学学術交流会館小講堂にて開催され、会員57名、一般参加者40名、計97名が参加した。今回は、「先史時代の植物利用研究－栽培植物から見た考古学研究－」と題し、栽培植物に関するこれまでの研究成果の発表と今後の展望についての議論がなされた。

基調講演では、山田悟郎氏が「栽培植物研究の現状」と題し、北海道におけるフローテーション法導入の経緯やその成果（特にヒエ・ヒエ属、オオムギ、ササ属の成果）について発表された。ヒエ・ヒエ属については、縄文時代早期から利用が始まり、前期・中期には馴化が始まり、後期以降に栽培化に向かった可能性を示された。そして、擦文時代には道内一円で栽培されたアワ・キビに対しヒエの栽培は限定的であったが、アイヌ文化期になるとキビに代わってヒエが主要穀物になることを指摘された。擦文時代から出現するオオムギには２系統（皮性と裸性）あり、皮性は本州から、裸性は大陸の沿海地方から渡ってきた見解を示された。ササ属は、縄文時代後期以降の遺跡から発見されており、成分がコムギに似ていることから、雑穀類の代用食として利用されていたのではないかと推察された。

椿坂恭代氏は、「フローテーション作業を通してわかってきたこと」と題し、同氏が長年の種子同定作業を通じて蓄積された研究成果を発表された。今回は、ヒエ（ヒエ属）、オオムギ、マメ科の種子の形態

および構造の特徴を紹介された。特にヒエ種子の長さを幅の割合を計測すると、縄文時代から擦文時代にかけては徐々に細長くなる傾向であるのに対し、中・近世のヒエ種子は突如円形に近くなることを指摘された。また、マメ科種子では、半裁して初生葉や胚軸の観察によって同定が可能であることを示された。

小畑弘己氏は、「圧痕法による先史古代の植物栽培と人々のくらし－三内丸山遺跡における圧痕法調査とその分析を通じて－」と題し、圧痕（レプリカ）法の有用性や研究成果を発表された。圧痕法は、コンタミネーションの危険はなく、コクゾウムシなど貯蔵植物害虫も発見でき、先史時代の生活環境を研究する上でも有用であることを説明された。また、韓国での調査では、炭化種子では発見されなかった種子を発見して、栽培種における従来の見解を覆し、三内丸山遺跡ではコクゾウムシを多数発見するなどの成果を紹介された。

高瀬克範氏は、「レプリカ法からみた日本列島東部縄文晩期～弥生・続縄文文化期の栽培植物利用」と題し、コメを中心とした東日本におけるレプリカ法の研究成果を発表された。東北地方では、レプリカ法によるコメの発見例が数多くあり、一部にはコメを栽培していない地域があるものの、畠作よりも稲作中心であることを紹介された。北海道においては、栽培植物の発見例はないが、炭化種子では数多く発見されているヒエ属がレプリカ法ではどのように出現するかを検証するためにも、研究継続の必要性を示された。

伊藤由美子氏は、「栽培植物としてのウルシ－青森県内遺跡の出土例から－」と題した発表をしていただいた。青森県での事例から、ウルシは縄文時代前期から栽培され、樹液だけではなく果実も利用されていた可能性を示された。また、ウルシ科果実の同定では、内果皮の３層からなる組織の構造を観察することが有効であり、その特徴を紹介された。さらに、中世では製蝋を行っていた可能性を示唆し、近世の文献資料や九州・四国地方の民俗例を紹介された。

全体討論では、炭化種子におけるコンタミネーション問題を解決するためにＣ14年代測定などの積極的な導入が求められた。また、小畑・高瀬氏からは全国的にも炭化種子の研究が進んでいる北海道において、栽培植物研究の精度を上げるために、レプリカ法ももっと積極的に導入すべきとの意見が出された。また、伊藤・山田氏からは、今後の研究法の進展に備えて、サンプリングした土壌等を適正に保管しておくべきであるとする提言もなされた。

## 遺跡見学会のご案内

毎年恒例の遺跡見学会、今年度は「余市町・小樽市の遺跡・博物館を巡る」をテーマとして、現在余市町内で発掘調査中の遺跡見学と余市町・小樽市の遺跡・博物館見学を行います。10年ぶりに日本海側での見学会となります。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

**期　　日**　８月31日(土)　雨天決行
**集合場所**　札幌駅東通り北口（観光バス乗り場前）　集合時間　９：00
＊バスは北遊観光バスです。
**見学コース**　ＪＲ札幌駅北口（９：00）⇒道央自動車道経由で余市町へ
⇒午前：余市町教育委員会が調査中の遺跡～登町４遺跡、余市町水産博物館、
西崎山ストーンサークル、フゴッペ洞窟など
⇒午後：小樽市総合博物館、手宮洞窟、忍路環状列石など
⇒道央自動車道経由で札幌市へ　⇒　ＪＲ札幌駅（17：00頃到着予定）
＊なお、天候・道路・現場の状況により行程を多少変更する場合がございます。ご了承下さい。
**参加費用**　大人4,000円、中学生以下2,000円（バス代、入館料、保険料込み）
＊当日申し受けます。
＊別途、お弁当を注文することができます。飲み物込で1,000円以下の予定です。
申し込み時に「昼食希望」と明記してください。
**募集人数**　先着順60名（予定）
**申込方法**　往復葉書かメールで。**電話受付は致しません。**
①往復葉書の場合
＜往信部表面＞　〒052-0014　伊達市館山町21-5　伊達市噴火湾文化研究所気付
北海道考古学会事務局
＜往信部裏面＞　郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号、昼食希望の有無を記入。
＜返信部表面＞　返信用の郵便番号・住所・氏名を記入。
＜返信部裏面＞　何も記入しないでください。
②メールの場合

hokkaidokoukogakkai@auone.jpに郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号、昼食希望の有無を記入し、送信してください。

**申 込 期 限**　８月23日（金）　当日の消印有効。

**キャンセル**　葉書かメールで。８月26日（月）以降のキャンセルは、下記問い合わせ先にお電話ください。

**問い合せ先　月～木の18：00～20：00のみ。**見学会担当：酒井（090-8373-2799）まで。

**服装・お持ちいただく物**　昼食（お弁当を注文しない方）・雨具は各自持参してください。また、歩きやすい服装・靴でお越しください。その他、帽子、飲み物、常備薬、虫よけ、筆記用具などお持ちいただくことをお勧めいたします。

## 月例研究会のお知らせ

**【今後の予定】**

**第１回月例研究会**

○日　時：７月20日（土）　13：30～

○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517

○発表者：田代雄介氏（むかわ町教育委員会）

○テーマ：むかわ町穂別富内123番地出土の鉄鉾について

※日時、場所などの詳細は、決定次第、北海道考古学会ホームページでお知らせいたします。

※会員の皆様で、発表を希望する方は北海道考古学会事務局（hokkaidokoukogakkai@auone.jp）までご一報ください。

### 北海道考古学会の歩み（６）

## 北海道考古学会創立の頃の思い出（その２）

野村　崇

**日本考古学協会入会前後のこと**

1963（昭和38）年10月19、20日の北海道考古学会創立の日のことは前回書いたが、この頃に自分が経験したある事柄が、当時の北海道考古学界をとりまく状況をよく物語っていると思うので、それについて書く。

前号（第105号）で、私が高校教員になったばかりの1962（昭和37）年の春、夕張郡長沼町のウレロッチ川左岸遺跡の緊急発掘の経験を述べた。その２年後の1964（昭和39）年２月初め、当時、所帯をもったばかりの夕張市鹿島常盤町の市営住宅に大場利夫先生から１通の郵便はがきが届いた。大場先生は当時、北海道大学医学部講師（専任）で、北海道文化財保護専門委員。北海道教育委員会を通じて文化財保護委員会に進達される「埋蔵文化財発掘届」の事実上のチェックポイントと目されていた。

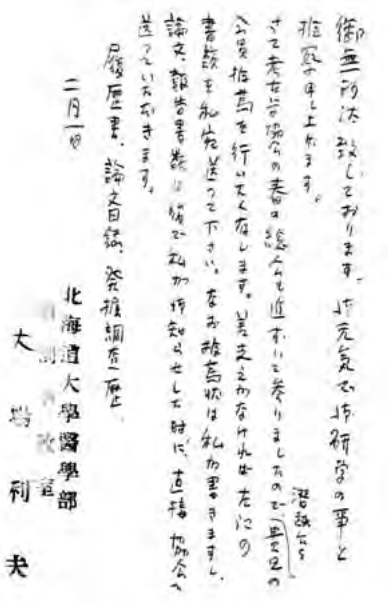
届いた５円のはがきは、今のものより一まわり小さく時代を感じさせる。内容は以下に示すように、私を日本考古学協会の会員に推薦してくれると言うものであった（資料１）。有難い話ではあったが、「サテ、困ったことになったなあ…」と空を仰ぎ見る心境であった。

と言うのは、私は考古学事始めの頃から吉崎昌一氏の影響を強く受け、紆余曲折のあと明治大学文学部の考古学専攻科に入った。大学では芹澤長介先生の旧石器文化や縄文文化の講義を聞き、新潟県荒屋遺跡や遠軽町タチカルシュナイ遺跡などの発掘に連れていってもらっていた。

その芹澤先生が1963（昭和38）年８月から東北大学に移った後、1964（昭和39）年春の協会時に「君を推薦する」という手紙をもらったばかりだったのである。

さっそく、そのいきさつを芹澤先生に手紙に書いて送った。折り返し、２月８日付の速達はがきが、山中のわが家に届いた。

内容は、考古学協会への推薦状を大場先生と連名で出すというもの（資料２）。そうこうしているうちに、明治大学の杉原荘介先生から３月１日付で、当時、一般的に使われていた青焼きリコピーの手紙が届いた。内容は同じく考古学協会への推薦状提出の件である。なんと言っても、杉原先生は母校の主任教授である。ことのいきさつを最初からコマゴマと書いて送った。



**資料１　大場利夫先生からのはがき（1964年）**

資料２　芹澤長介先生からの
速達のはがき（1964年）

結果は、３名の大先生が私の推薦状に連名で書いてくれると言うことになった。

大場利夫先生は、５月３日、本郷の東大構内で開かれた第30回日本考古学協会総会に出席し、無事パスした旨の速達絵はがきを、会場で書いて投函してくれた（資料３）。北海道からは千代肇氏が出席し、吉崎昌一氏も今朝上野に着き、そのまま出席していることなど、大場先生らしい細やかな気配りのきいた内容である。裏は開業まもない東京タワーの図柄で、速達代は35円。この頃から航空機が使われたのか投函の翌日に大夕張のわが家に届いている。

資料３　日本考古学協会第30回総会（東大）からの絵はがき。絵柄は開業まもない東京タワー

急速に変貌する当時の東京。日本の考古学も北海道の考古学界も何やらえもいわれぬ無気味なエネルギーを抱えたまま、どちらの方向に向かおうとしているのか。予測も判断もつかない20代半ばの自分の姿がそこにあった。

（北海道考古学会創立50周年記念行事実行特別委員会委員長）

## 入退会者のお知らせ

≪新入会員≫　※五十音別・敬称略

安達香織（神奈川県）、井口利夫（室蘭市）、高橋美鈴（江別市）、冨樫那美（東京都）
中野育男（東京都）、吉原秀喜（平取町）

≪退会者≫　※五十音別・敬称略

大井晴男（札幌市［物故］）、熊谷仁志（江別市）、松谷純一（恵庭市）

## 会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

**郵便局口座番号：02770−6−8358　　加入者名：北海道考古学会**
**年会費：（一般）5,000円　（学生）3,500円**

## 会誌編集委員会からのお知らせ

**会誌第50輯の原稿を募集しています**

『北海道考古学』第50輯（2014年３月刊行）へのご投稿をお待ちしております。原稿の締め切り日は下記のとおりですが、投稿を希望する方は、編集の都合上、10月31日（木）までに会誌編集委員会事務局まで連絡をお願いいたします。原稿の分量・体裁等は、学会ホームページ及び『北海道考古学会だより』第95号（2009年12月）をご参照ください。なお、第50輯は特集号となりますため、紙面の都合上、掲載が叶わない場合もあります。あらかじめご了承ください。

今年度から会誌編集委員会の事務局は下記に変更になりましたので、よろしくお願いいたします。

**原稿締め切り日**　2013年12月25日（水）（必着）

**会誌編集委員会事務局**　〒069−8555　江別市文京台11　札幌学院大学　臼杵研究室
TEL：（011）386−8111　　E-mail：usu@sgu.ac.jp

**会誌に関するアンケート結果の報告について（前会誌編集委員会より）**

2012年11～12月に実施した会誌アンケートについては、集計結果を別冊プリントの形で同封いたしました。ご協力ありがとうございました。これら会員皆様のご意見については、新会誌編集委員会で検討され、よりよい会誌づくりに役立てられる予定です。

## 北海道考古学会創立50周年記念行事実行特別委員会からのお知らせ

1963年に創立された北海道考古学会は、今年で創立50周年を迎えます。これを記念する行事として、「北の遺跡を発掘する－北海道考古学の成果と展望－」と題した講演会を実施いたします。

本講演会では、これまで北海道の考古学研究の進展に寄与したモヨロ貝塚やキウス遺跡群をはじめとするさまざまな遺跡の発掘調査を取り上げ、その成果と今後の課題について議論する予定です。奮ってご参集ください。

**日　時**　2013年10月５日（土）　13：00～　　**会　場**　北海道大学学術交流会館　小講堂・ロビー

## その他

**〔特別委員会について〕**

今年度特別委員会について以下のように決定しましたのでご報告いたします。

**遺跡保護特別委員会**　　委員長：熊木俊朗、２号委員：青野友哉
**北海道考古学会創立50周年記念行事実行特別委員会**
委員長：野村崇、副委員長：田口尚、１号委員：石井淳、高倉純、２号委員：内山幸子、高瀬克範

北海道考古学会だより　　第106号　　2013年７月10日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http://www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒062−0810　北海道伊達市館山町21−5
伊達市噴火湾文化研究所内　北海道考古学会事務局
TEL：（0142）21−5050　　FAX：（0142）22−5445
E−mail　：hokkaidokoukogakkai@auone.jp
印　刷　北海道図書企画　　（011）668−1131